

「保育園等における木材および木質系内装活用による木育効果の解明」

実験実施概要

NPO 法人まえばし保育ネットワーク
理事長 栗木信昌

近年「木育」という言葉が大変注目を集めております。しかし実際に子どもが木材と触れ合うことによる効果はほとんど検証されていません。そこで NPO 法人まえばし保育ネットワークは、NPO 法人の木および国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所と共同で、保育園児が木製の玩具で遊んだ際の効果を明らかにすることを目的に生理的な測定手法を用いて実験を実施しました。

測定は二之宮保育園(群馬県前橋市)において、同保育園に所属する5歳前後の園児10名(男児5名、女児5名)に被験者になっていただきに行いました。園児および保護者には、事前に実験の目的や内容について十分な説明を行い、保護者から実験参加に関する同意をいただきました。この実験は国立研究開発法人森林総合研究所倫理審査委員会(平成28年度)による審査および承認を受けて実施されました。

具体的には、木製玩具としてブナ材積み木を使用し、これに対応する同じサイズの樹脂製積み木も用意しました。園児には木製の積み木または樹脂製の積み木で15分間遊んでもらい、その間、心拍を連続的に測定しました。

結果として、木製積み木で15分間遊んだ際の自律神経系の反応は、樹脂製積み木で同じ時間遊んだ際の反応とは異なっており、木製積み木で遊んだときの方が、園児の体が「リラックス」していることが分りました。一方で、今回の測定では被験者数が少ないため、今後もデータの蓄積が必要であると考えられました。

このように、子どもが自然材料である木と触れ合うときの効果を明らかにするために、29年度も実験事業を継続することとしております。

今回の木育効果測定は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金ならびに国立研究開発法人森林総合研究所運営費交付金(平成28年度)により実施されました。

最後に、実験の実施にあたりましてご協力をいただいた被験者および保護者の方々をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成29年7月